

若手研究者育成のためのワークショップ 第5回細菌学若手コロッセウム

終了報告

平成23年8月8日から10日の3日間にわたり、第5回細菌学・若手コロッセウム(若手研究者育成のためのワークショップ)を高知大学農学部ならびに桂浜荘(高知県高知市)において開催し、無事に終了致しましたのでご報告申し上げます。

高知という地方都市での開催、また真夏の暑い時期にもかかわらず、参加者は56名を数えました。1日目には高知大学農学部において「細菌学研究は花ざかり」と題し細菌を用いてアクティブに研究されている4名の女性研究者をお迎えし、特別講演をお願いしました。西村いくこ先生(京都大学)・「細胞内膜系を利用した植物の生存戦略」、古谷綾子先生(茨城大学)・「イネ白葉枯病菌タイプⅢ分泌エフェクターの同定と機能解析」、三室仁美先生(東京大学)・「ヘリコバクターピロリの宿主感染戦略」、今泉温子先生(生物研)・「細菌と真菌～2つの異なる共生微生物の感染を制御する1つの感染受容シグナル経路」と多様な研究分野の講演で、参加者にとって大きな刺激となりました。なお、特別講演は高知大学大学院の特別セミナーとの共催として行いました。

桂浜荘に場所を移した2日目、3日目には一般講演を行い、若手研究者から、ヒト病原菌、動物病原菌、植物病原菌、環境菌など様々な細菌のみならず、これら細菌の酵素やタンパク質を対象とした37題の多様な研究発表が行われました。非常に活発な質疑応答も展開され、活気のあるワークショップとなりました。休憩時間や交流会等においても、活発な参加者間での交流が行なわれ、参加した全ての若手研究者にとって、非常に有意義な3日間になったと思います。

本ワークショップは、日本細菌学会「平成23年度若手研究者育成のためのワークショップ」に採択され、本学会からの全面的な支援を受けて開催されたものです。本ワークショップへのご支援について、日本細菌学会理事会及び会員の皆様に改めて感謝申し上げます。若手研究者の活性化や教育のためにはこのような形式のワークショップを継続して行うことが必要だと考えております。引き続き、本ワークショップの継続的な開催へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成23年11月8日

若手研究者育成のためのワークショップ

第5回細菌学若手コロッセウム

世話人 大西浩平(高知大学総合研究センター)